

一喜一憂

No.11

「一喜一憂」

情況の変化に喜んだり、
心配したりすること

藤屋 侃士

(下松市幸ヶ丘)

ホタルとホタルブクロ

ゆううつと思えば、所を老人がトボトボ、雨もむさくるしいが、おつかいなビックリ歩い妻は草木に生命をもたても、迷惑な話だ。

らす長雨に感謝しま 妻の実家はふしの川い合う。1匹も間違わしようと言う。そう言の側にあつた。まだ私ずい、見事というしかわれば草花は たちが幼少の頃から中ない。ホタルの源平合いつそう色濃(こ)く 学生ごろまでは、川で戦と言って私たちは喜鮮明になつて来る。 泳ぐのがあたり前だつ

今年、入院中でホタルを見に行く機会がなかつた。もつとも、入院していなくても行ったかどうかから行つたかどうかかわらない。暗い夜中をしかも細いあぜ道のような



た。プールなんて洒落たものもなかつた。6月月中旬ごろからは、ホタルの乱舞を見に行つていた。川岸の右側と左側でホタルが交互に光を競

い合う。1匹も間違わずい、見事というしかである。エサは食べず水を飲むだけだ。そのせいかどうかかわらないうが「こつちの水は甘いぞ」「あつちの水は苦いぞ」と歌いながらホタルを呼び寄せていた。つかまえたホタルを両手に包むように持ち帰り、蚊帳(かや)の中で飛ばして遊んだりしていたのを思い出す。今の子どもたちは蚊帳も多分知らないだろ。妻は染めて夏は涼しいとスモック風の洋服にして着ている。ゲンジボタルは6月7月ごろ、ひと回り小さいヘイケボタルは7月ごろから姿を現す。今、我が家ではホタルブクロが真っ盛りである。白と紫の2色が70〜80センチのたけにまで成長した。もともと野



は自然が遊び道具であつたが、今はゲーム中心。孫とTV電話でアレクサと遊んでいた。孫はゲームをしながら私と話しをするので叱られていた。今は叱られることや物も違ってきている。どちらがどうと言うのではないが、庭のホタルブクロの花にはホタルではなく、ハチが入りしている。